

令和 5 年 2 月 24 日

教 育 長 様

研究コース
B グループ研究B
校園コード (代表者校園の市費コード)
541091
選定番号
210

代表者	校 園 名 :	大阪市立四貫島小学校
	校園長名 :	森石 泰生
	電 話 :	06-6468-5451
	事務職員名 :	立石 教子
申請者	校 園 名 :	大阪市立桃陽小学校
	職 名・名前 :	教諭 山本 秀人
	電 話 :	06-6772-2925

令和4年度 「がんばる先生支援」研究支援 報告書

◇令和4年度「がんばる先生支援」研究支援について、次のとおり報告します。

1	研究コース	コース名	B グループ研究B	研究年数	新規研究 (1年目)
2	研究テーマ	配慮を要する児童のよりよい「今」そして「未来」を目指して			
3	研究目的	<p>大阪市教育振興基本計画に基づき、全ての子どもが心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓く力を備え、健やかに成長し、自立した個人として自己を確立することをめざす。あわせて、グローバル化が進展した世界において、多様な人々と協働しながら持続可能な社会を創造し、その担い手となることをめざすことを研究目的として、実践研究を行う。</p> <p>○障がいのある者も障がいのない者も、互いを認め合い協働できる共生社会をめざすために、障がいのある児童の自立と社会参加を見据えて、一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援が提供できるよう、通常学級、特別支援学級、通級による指導での学びを充実させる。</p> <p>○学びの充実に向けては、教員の発達障がいを含む障がいに対する理解や、特別支援教育の専門性を高めるための研修を実施し、校園内における支援体制の充実と強化を行う。</p> <p>○障がいの状態や特性に応じ、ICTを活用した学習を推進する。</p>			
4	取り組んだ研究内容	<p>いつ、何のために、どのようなことを実施したのかを具体的に記載してください。(MSコシック 9.5ポイント)</p> <p>(1) 授業部会 【研究副題】インクルーシブ教育を意識した授業づくり インクルーシブ教育を意識し、児童全員が一体となれる授業を展開するために通常学級担任と特別支援教育担当がともにデザインする授業研究に取り組んだ実践を踏まえ、実態把握に努めながら、特別支援学級での授業づくりと、通常学級で特別支援学級に在籍する児童と通常学級の児童が共に学び合う授業づくりを追求した。授業研究会を各校で延べ13回行い、次のような視点で研究を進め、考察・検討した内容を研究紀要としてまとめ、情報発信した。</p> <p>○『一次的支援』授業のユニバーサルデザイン化、児童の授業の参加の仕方</p> <p>○『二次的支援』通常学級担任と特別支援学級担任の情報交流の持ち方、入り込み支援での情報共有の仕方、個々の児童の実態に応じた教科学習の進め方、合理的配慮に基づく目標の設定</p> <p>○『三次的支援』自立活動の指導の進め方について、人と関わる力を伸ばし、社会参加する力を養う指導について</p> <p>(2) 学校生活部会 【研究副題】配慮を要する児童の1人1台端末の活用について 特別支援学級在籍児童におけるタブレット端末の活用状況に関する実態調査を実施し、その有効性と問題点を検証することで、児童の実態に即した有効な活用方法を探った。実態調査については、全市の特別支援学級担任に次のような視点のオンラインアンケートを実施し、研究部にて分析、考察を行い、研究紀要としてまとめ、情報発信した。</p> <p>○活用上の個々のルールや決まり事など ○現在使用しているアプリや手作り教材に関して</p> <p>○操作が難しい児童の具体的な理由に関して ○活用している具体的な場面について</p> <p>○活用する中で児童ができるようになったこと的具体例や印象的なエピソードなど</p> <p>(3) その他の研究と活動</p> <p>① 大阪市小学校特別支援教育担任者会と連携して、研究活動や行事等を推進した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特別支援教育研修会 (7月12月実施) ・ 第42回「障がいのある子どもに学ぶ」図工展 (1月実施) <p>② 本部会の活動を支援する大阪市小学校特別支援教育研究会 (小養研) との連携を深めた。</p> <p>③ 大阪市小学校教育研究会主催の学習指導基本研修会で実践報告を行った。</p> <p>④ 大阪市立中学校教育研究会特別支援教育部と連携を図り研究活動を進めた。</p> <p>⑤ 近畿特別支援教育連絡協議と連携し、今後の研究の在り方について協議するとともに、第59回近畿特別支援教育連絡協議会大阪大会の計画、実施し、主として運営を行った。</p>			

5	研究発表等の日程・場所・参加者数	研究発表等を実施した日・場所・参加者数を記載してください。				
		日程	令和 5 年 2 月 3 日		参加者数	約 440 名
		場所	大阪市教育センター講堂およびオンライン			
		備考	オンライン実施のため、端末に複数名が視聴しているため、参加者数は上記人数以上である。			
6	成果・課題	大阪市教育振興基本計画に示されている、 <u>子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上</u> および <u>教員の資質や指導力の向上</u> について、申請書に記載した検証方法から得られた結果と、それらからの結果に基づいた考察を、具体的に記載してください。				
		【見込まれる成果1】 ○インクルーシブ教育を意識した授業研究及び事例研究を行い、考察分析し結果をまとめることにより、特別支援教育部研究委員の指導力の向上を図る。				
		《検証方法》 ○研究授業及び事例研究の成果を研究紀要として冊子にまとめる。冊子は大阪市立小学校全校に配布し共有する。				
		〔検証結果と考察〕 本市の喫緊の課題である、インクルーシブ教育、自立活動の推進、一人一台学習者用端末の利用に関する実践研究を研究紀要にまとめ、大阪市立小学校、中学校、幼稚園の全校園に配布し、研究成果を共有した。 結果より、当初目標は十分達成することができたと考えられる。				
6	成果・課題	【見込まれる成果2】 ○第59回近畿特別支援教育連絡協議会大阪市大会を実施する。大阪市中学校教育研究会・大阪市小学校特別支援教育担任者会・大阪市特別支援教育研究協議会等と連携し、近畿4県2政令指定都市との合同研修会を行う。また、特別支援教育部主催による研修会を実施し、小学校特別支援教育担任者会との合同研修会とすることにより、多くの教員の研鑽の場とする。				
		《検証方法》 研修会の参加者数をそれぞれ200名以上、30名以上とする。				
		〔検証結果と考察〕 令和4年8月5日に大阪市立こども文化センターで「第59回近畿特別支援教育連絡協議会大阪市大会」を実施した。当日は、近畿1府3県2政令指定都市から、現地参加・オンライン参加合わせて427名の教員の参加があった。 また、令和4年12月26日には大阪市教育センターで「特別支援教育研修会」を実施した、小学校特別支援教育担任者会との合同で行った本研修会には、大阪市内から現地参加・オンライン参加合わせて69名の教員の参加があった。 結果より、当初目標は十分達成することができたと考えられる。				
		【見込まれる成果3】 ○授業研究及び事例研究の成果を第38回大阪市小学校教育研究会総合研究発表会2年次発表で発表することにより、大阪市立小学校に勤務する教員の、配慮を要する児童に対する指導力向上に寄与する。				
6	成果・課題	《検証方法》 研究発表会の参加者を、大阪市立小学校数の半数である144を上回るようにする。				
		〔検証結果と考察〕 令和5年2月3日に大阪市教育センターで「大阪市小学校教育研究会総合研究発表会2年次発表」を行った。当日は、大阪市内から現地参加・オンライン参加合わせて443名以上の教員の参加があった。（443名以上とするのはオンライン実施のため、端末に複数名が視聴していることによる。） 結果より、当初目標は十分達成することができたと考えられる。				

6	成果・課題	<p>【見込まれる成果4】 ○授業研究及び事例研究の成果を第38回大阪市小学校教育研究会総合研究発表会2年次発表で発表することにより、大阪市立小学校教員の配慮を要する児童に対する指導力向上に寄与する。</p> <p>《検証方法》 参加者にアンケートをとり、指導力向上に関する項目において、肯定的な回答を80%以上とする。</p> <p>〔検証結果と考察〕 参加者アンケート結果は次のとおりである。 「説明や資料、教材はわかりやすいものでしたか」とても思う51.4%思う47.4% 「自分の知識を深めたり、新たな発見がありましたか」とても思う49.7%思う48.4% 「研究発表会で得た知識や気づきは今後の実践に活かすことができそうですか」とても思う50.4%思う48.6% いずれの項目においても参加者の99%以上が肯定的な回答をしており、目標は十分達成できたと考えられる。</p> <p>【見込まれる成果5】 ○第42回「障害のある子どもに学ぶ」図工展を大阪市小学校特別支援教育担任者会と共催で開催する。配慮を要する児童に関わる大人を対象とした、児童の作品を発達の観点から捉え、子ども理解を深める研修の場とする。</p> <p>《検証方法》 開催期間中の参加者数が延べ500名を上回るようにする。</p> <p>〔検証結果と考察〕 令和5年1月20日～27日に大阪市教育会館で「第42回障がいのある子どもに学ぶ図工展」を実施した。参加54校、出品児童数910名、出品作品数773点となり、開催期間中に観覧に訪れた参加者数は746名となった。 結果より、当初目標は十分達成された考えられる。</p> <p>【研究全体を通した成果と課題】 具体的に記載してください。 大阪市立小学校では、配慮を要する児童は特別支援学級だけではなく、ほぼ全ての通常学級で学校生活を送っている。配慮を要する児童に対しての学習指導のスキルを高めることや、学校生活の支援スキルを高めることは全教員にとって切実なニーズである。 授業部会では、インクルーシブ教育の進め方を構造的に捉える実践研究を進めた。通常学級と特別支援学級のそれぞれでの指導の進め方について、ユニバーサルデザイン教育、合理的配慮、自立活動などの実践事例を提示し、各校で活用しやすい指導を示した。 学校生活部会では、一人一台学習者用端末が各校でどのように活用されているか、アンケート調査を行い、特別支援教育における教育DXのあり方について検討を進め、全市各校に共有することができた。今後も継続的に研究を行い、全ての児童が「共に学び、共に育ち、共に生きる」学校の実現に寄与できる研究として深めていきたい。</p> <p>《代表校園長の総評》 今年度の研究活動は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の対策をとりながら、Microsoft Teamsによる全体・部会会議や授業参観、クラウドストレージによる公開授業オンデマンド配信や記録写真の共有、校務支援システムによる文書やメールのやりとりなど、ICTを最大限に活用して、参集以外の方法も模索しつつ研究活動を力強く進めてきた。近特連大阪市大会、特別支援教育研修会、総合研究発表会といった公開発表を通して、研究活動を広く共有することができる機会が多く得られた年でもあった。研究紀要の内容は、現在の大阪市が直面している課題にリンクしている。今回の研究内容を全市に発信することで、配慮の要する児童への指導・支援内容の参考となることを大いに期待している。</p>
---	-------	---

令和 5 年 2 月 24 日

教 育 長 様

研究コース	
B グループ研究B	
校園コード（代表者校園の市費コード）	
541091	
選定番号	210

代表者	校 園 名 :	大阪市立四貫島小学校
	校園長名 :	森石 泰生
	電 話 :	06-6468-5451
	事務職員名 :	立石 教子
申請者	校 園 名 :	大阪市立桃陽小学校
	職名・名前 :	教諭 山本 秀人
	電 話 :	06-6772-2925

令和4年度 「がんばる先生支援」研究支援 経費執行使途報告書

◇「がんばる先生支援」として、経費を次のとおり報告します。

研究テーマ	配慮を要する児童のよりよい「今」そして「未来」を目指して
-------	------------------------------

費 目		金 額	備 考
8 旅費	5 普通旅費		
教育センターでの経費執行	計		①
7 報償費	1 報償金		
10 需用費	1 消耗品費	6,980	
	4 印刷製本費	209,000	
11 役務費	1 通信運搬費		
	4 手数料		
	5 筆耕翻訳料		
12 委託料			
13 使用料及賃借料	1 使用料		
17 備品購入費	2 校用器具費		
	3 図書購入費		
18 負担金、補助金及交付金	5 会費		
学校での経費執行	計	215,980	②
合 計		215,980	①+②

研究活動にあたって、どのような目的で、どのような物品を購入したのか、主なものを記述すること。
また、経費執行における申請時からの主な変更点を記述すること。

【10-1消耗品費】

研究のまとめとして研究紀要を作成、各校への発送のための封筒500枚とタックシール500枚分

【10-4印刷製本費】

学校生活部会、授業部会の各々が実践事例を持ち寄り、その研究成果をまとめ発信するための冊子900部作成分
 ≪変更点≫：申請時より物価が高騰しているため、研究紀要の印刷製本費の増額をおこなった。研修会の講師謝礼が不要となったため、報償金の減額をおこなった。ラベルシールの購入額を増やす一方、封筒の購入単価落ちのため、差し引きして消耗品費の減額をおこなった。

内訳明細

研究コース B グループ研究B 代表校園 大阪市立四貫島小学校

(R04 様式 5-2)

代表校校園コード 541091

費 目	内 容	数 量	単 価	金 額	実施月
8 - 5 普通旅費					
	費 目 小 計				
7 - 1 報償金					
	費 目 小 計				
10 - 1 消耗品費	白封筒 角形2号 500枚入り	1	4,250	4,250	10
	ラベルシール A4 12面100枚	1	2,730	2,730	10
	費 目 小 計			6,980	
10 - 4 印刷製本費	研究紀要印刷 A4 900部 60ページ	1	209,000	209,000	1
	費 目 小 計			209,000	
11 - 1 通信運搬費					
	費 目 小 計				
11 - 4 手数料					
	費 目 小 計				
11 - 5 筆耕翻訳料					
	費 目 小 計				
12 委託料					
	費 目 小 計				
13 - 1 使用料					
	費 目 小 計				
17 - 2 校用器具費					
	費 目 小 計				
17 - 3 図書購入費					
	費 目 小 計				
18 - 5 会費					
	費 目 小 計				
合 計				215,980	